人権・同和教育保護者だより　第47号
小松高等学校ＰＴＡ人権教育部
令和３年２月発行

きらり

Citrus Ribbon PROJECT

☆シトラスリボンプロジェクト

ストップ!!コロナ差別　思いやりの心を小松から

☆第２回人権・同和教育ホームルーム活動

１年　自分の周りに目を向けよう

２年　水平の旗ひるがえる

３年　結婚差別の解消に向けて

○自分らしく生きて～女性になった父と家族の日々～（目撃！にっぽん）を鑑賞して

中学校教師浦田さん（43歳）は男性として生まれましたが、心は女性というトランスジェンダーです。幼い頃から違和感を持っていましたが、結婚して三人の子どもにも恵まれました。しかし、五年前「自分は女性でありたい。本当の自分でいたい。」と家族に打ち明けました。末っ子はまだ小学一年生だったので、当然戸惑い、友だちのお父さんと異なる姿を誰にも言えませんでした。三年前には仕事場である学校でも女性として働くことを決意します。どんな反応がくるか怖くてたまらなかったそうですが、当時の生徒たちは多感な時期であるにもかかわらず、「女性になったら今までの先生と変わるの？変わらないなら良いんじゃない。」と、偏見もなくただの個性として受け入れてくれたそうです。そこには、とても深い信頼関係がありました。自信を持って働いている父親を見て、末っ子はそのことを友だちに打ち明けました。小学校の卒業式にも女性になった父と共に参加することができ、家族みんなが固い絆で結ばれた瞬間を迎えました。一人じゃないと思える場所（家族）があることで、自分らしく生きていけると確信できたそうです。

○和解の島～ハンセン病 対話の先に～（目撃！にっぽん）を鑑賞して

沖縄の離島で若い頃から何十年と隔離され、差別されることに苦しんできた元ハンセン病患者の方の思いを見て、本当に心が沈み、いたたまれない気持ちになりました。この島にハンセン病の隔離施設があることで、ハンセン病でない住民たちも島外から差別を受けてきたことが明らかにされ、島内両者の隔絶は対話によって徐々に埋められていきました。

この番組を見て、私は新型コロナウィルスに感染した人への差別が頭に浮かびました。ある所では感染者の家に石が投げ込まれ、張り紙がされ、それを苦に引っ越しをした人もいたということでした。新型コロナウィルスが山を越えた後のことになるかもしれませんが、とにかく両者の対話を望みたいと思いました。

人権委員会現地研修（氷見交友会館）の感想

○林田哲雄さんは、社会改革を目指すようになり、70回以上も逮捕されながらも、あきらめずに闘い続けたことがすばらしいと思います。
○林田哲雄さんの生き方を通して、苦しみや差別から逃げるのではなく、自ら立ち上がり、自分で闘いとるということの大切さを学びました。自分の意思を貫き通せる人はなかなかいないので、自分も見習いたいと思いました。
○私の家の近くに隣保館があることを初めて知りました。林田哲雄さんは、苦しみや差別から逃げることなく、その苦しみや差別をなくそうという強い生き方をしていて感心しました。私も失敗を恐れず、強い人間になりたいです。
○小松にこのようなすばらしい人がいたことを誇りに思います。

☆人権ポスター

愛媛県人権ポスター 入選

人権標語

・いじめの芽　水をあげない　育てない
・考えよう　あなたの一言　言葉の刃
・手をさしのべよう　その勇気で　救われる
・その両手　傷つけるものじゃなく　救うもの

☆編集後記

今年度は、新型コロナウィルス感染症の影響によって、多くの講演会等が中止となり、残念ながら人権教育部としての十分な活動はできませんでした。ただ、そのような中にあっても、役員の皆様や顧問の先生の御協力により、人権・同和教育についてじっくりと考える機会をいただきました。

このような機会をいただき、また御協力いただいた多くの方々にお礼を申し上げ、「きらり」の編集後記とさせていただきます。